

3 今後の水質保全対策の方向性

◆ 公害対策の思想・枠組みから脱却し環境対策へ

- ・ 対処療法 ➡ 予防原則
- ・ 基準達成型 ➡ リスク管理型

◆ 流域管理の視点から水系一貫した水質保全対策の実施

- ・ 多様な主体との協働
- ・ 共通のアウトカム
- ・ 水質情報の共有
- ・ 小さな水循環(原因抑制)

◆ 環境の時代にふさわしい新しい水文化の創造

- ・ 一人一人の意識改革
- ・ 地域に根ざした水辺空間の創出

4 河川管理に求められる 水質保全への取り組み ～良好な河川環境の創出をめざして～

- ◆ 安全・安心が実感できる水質管理の実現
- ◆ 自然の水質浄化機能を引き出す河川整備の推進
- ◆ 住民との協働のための基盤整備
- ◆ 流域全体での取り組みに向けてリーダーシップを期待



4.1 安全・安心が実感できる水質管理

- ◆ 望ましい水質目標と指標の設定 (例：
魚が棲める水、泳げる水、安心して飲める水等)
- ◆ 環境の整備と保全に即したモニタリングの強化
- ◆ 湖沼等の水質汚濁メカニズムの研究
- ◆ 水系全体を統合した水質モデルの開発
- ◆ 水質情報共有化のためのデータベース整備

4.2 自然の水質浄化機能を引き出す 河川整備の推進

- ◆ 生物の多様性確保の視点に立った河川整備
- ◆ 植生などによる自然浄化機能の定量化モデルの研究
- ◆ ウェットランドの形成などを活用して、面源負荷を河川や湖沼への流入口で抑制する技術の開発

4.3 住民との協働のための基盤整備

- ◆ 水への愛着を高めるための、人々が近づく水辺の創出
- ◆ 実地での環境学習の場を提供する河川整備
- ◆ 交流の機会を創出するなど水質保全意識の啓発